



**2014年 9月改訂 (第6版)
*2008年 3月改訂

貯 法：室温保存
使用期限：容器、外箱に表示
注 意：取扱い上の注意の項参照

日本標準商品分類番号 873319	
	ソラセトF輸液
承認番号	21900AMX01701
薬価収載	2007年12月
販売開始	1999年 9月

酢酸リンゲル液
処方箋医薬品注) **ソラセト[®]F 輸液**
SOLACET[®]F

【組成・性状】

〈成分・分量〉

		1袋 500mL中	1袋 1000mL中
有効成分	塩化ナトリウム	3.0 g	6.0 g
	塩化カリウム	0.15 g	0.30 g
	塩化カルシウム水和物	0.10 g	0.20 g
	酢酸ナトリウム水和物	1.9 g	3.8 g
添加物	希塩酸 (pH調節剤)	適量	適量

〈電解質量〉

		1袋 500mL中	1袋 1000mL中
Na ⁺		65.5 mEq	131 mEq
K ⁺		2 mEq	4 mEq
Ca ²⁺		1.5 mEq	3 mEq
Cl ⁻		54.5 mEq	109 mEq
Acetate ⁻		14 mEq	28 mEq

〈性状〉

性状	無色澄明の水溶液である。
pH	6.5～7.5
浸透圧比	約 0.9 (生理食塩液に対する比)

【効能又は効果】

循環血液量及び組織間液の減少時における
細胞外液の補給・補正
代謝性アシドーシスの補正

【用法及び用量】

通常、成人 1回500mL～1000mLを点滴静注する。

投与速度は 1時間あたり 10mL/kg体重以下とする。

なお、年齢、症状、体重に応じて適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1)腎疾患に基づく腎不全のある患者
[腎不全病態が悪化するおそれがある.]

(2)心不全のある患者

[心不全が悪化するおそれがある.]

(3)高張性脱水症の患者

[高張性脱水症が悪化するおそれがある.]

(4)閉塞性尿路疾患により尿量が減少している患者

[水及び電解質が蓄積するおそれがある.]

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度については文献等を参考にした。

	頻度不明
大量・急速投与による障害	脳浮腫 肺水腫 末梢の浮腫

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

4. 適用上の注意

調製時

- (1)本剤はカルシウムを含有するため、クエン酸加血液と混合すると凝血を起こすおそれがあるので注意すること。
(2)リン酸イオン及び炭酸イオンと沈殿を生じるので、リン酸又は炭酸を含む製剤と配合しないこと。

【取扱い上の注意】

〈使用前の注意〉

- 内容液が漏れている場合や、内容液に混濁・浮遊物等の異常が認められるときは使用しないこと。
- 排出口をシールしているフィルムがはがれているときは使用しないこと。

〈調製時の注意〉

- 使用時には排出口をシールしているフィルムをはがすこと。
- 注射針は、無菌的操作により、ゴム栓の刻印部にまっすぐ刺通すること。斜めに刺すと、ゴム栓や排出口内壁の削り片が薬液中に混入したり、容器を刺通し液漏れの原因となったりすることがある。
- 薬剤を配合するときには、よく転倒混和し、配合変化に注意すること。

**〈投与時の注意〉

- 本品に通気針（エア針）は不要である。
- ** ● 輸液セット等のびん針を接続する際は、ゴム栓の刻印部にまっすぐ刺通すること。
- 連結管を用いた2バッグ以上の連続投与は原則として行わないこと。

〈ソフトバッグの取扱い上の注意〉

- 本品は軟らかいプラスチックのバッグなので、鋭利なもの等で傷つけないこと。液漏れの原因となる。
- * ● 包装袋より取り出したまま保管すると、内容液が蒸散する可能性があるため、速やかに使用するか包装袋に戻し封をすること。
- ** ● 容器の目盛りは目安として使用すること。

*〈安定性試験〉

加速試験（40℃、相対湿度75%、6カ月）の結果、通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された^{1), 2)}。

【包装】

500mL×20袋
1000mL×10袋

*【主要文献】

- 1) テルモ株式会社：500mLの安定性試験（社内資料）。
- 2) テルモ株式会社：1000mLの安定性試験（社内資料）。

*【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

テルモ株式会社 コールセンター
〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目44番1号
TEL 0120-12-8195